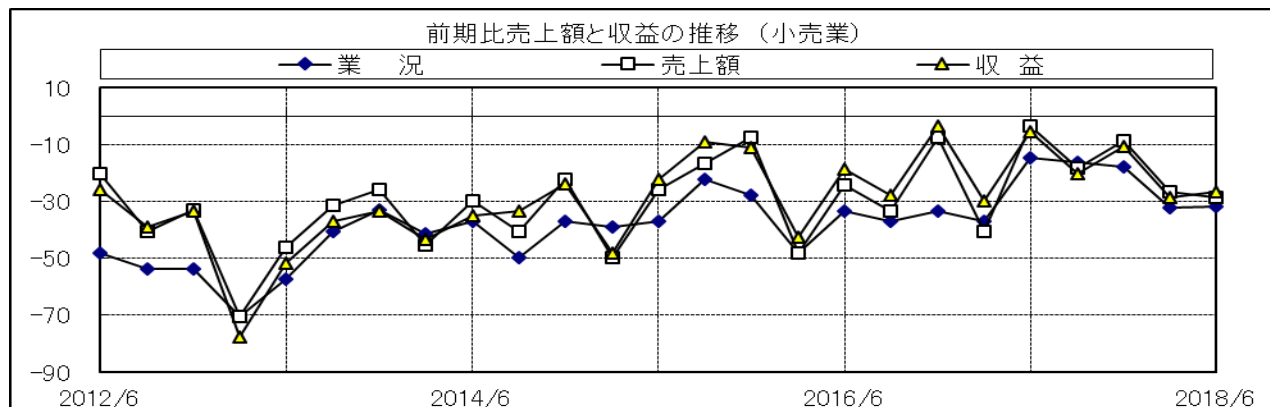


小 売 業 56 企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績
業 況	-17.9	-32.1	-32.0	-16.1
売上額	-8.9	-26.8	-28.6	-7.2
収 益	-10.7	-28.7	-26.8	-9.0

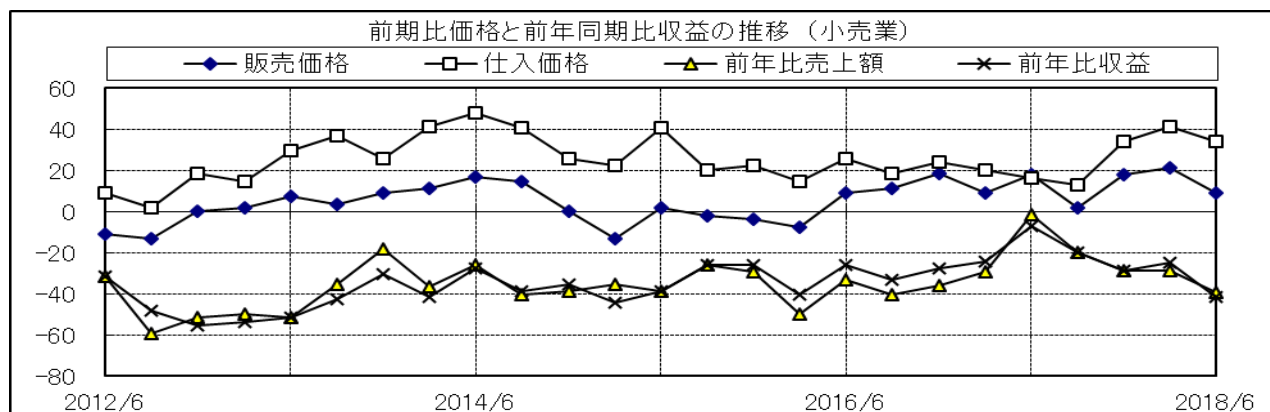
今期の業況判断 D. I. は△32.0 で、前期比 0.1 ポイント上昇、前年(△14.7)比では 17.3 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、静内、えりも、浦河、三石・広尾が同率で続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△28.6 で、前期比 1.8 ポイント下降。収益判断 D. I. は△26.8 で、前期比 1.9 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 見 通 し
販売価格	17.9	21.4	8.9	10.7
仕入価格	33.9	41.1	33.9	25.0

販売価格判断 D. I. は 8.9 で前期比 12.5 ポイント下降、前年(18.2)比で 9.3 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 33.9 で前期比 7.2 ポイント下降、前年(16.4)比で 17.5 ポイント上昇した。業種別では、衣料・食料品が販売・仕入価格ともに下降。家電品は販売価格が下降し仕入価格が上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 見 通 し
残業時間	-7.1	-10.7	-5.4	-3.5
人手状況	-21.4	-16.1	-14.3	-14.3

残業時間判断 D. I. は△5.4 で、前期比 5.3 ポイント上昇、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△14.3 で、前期比 1.8 ポイント上昇、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

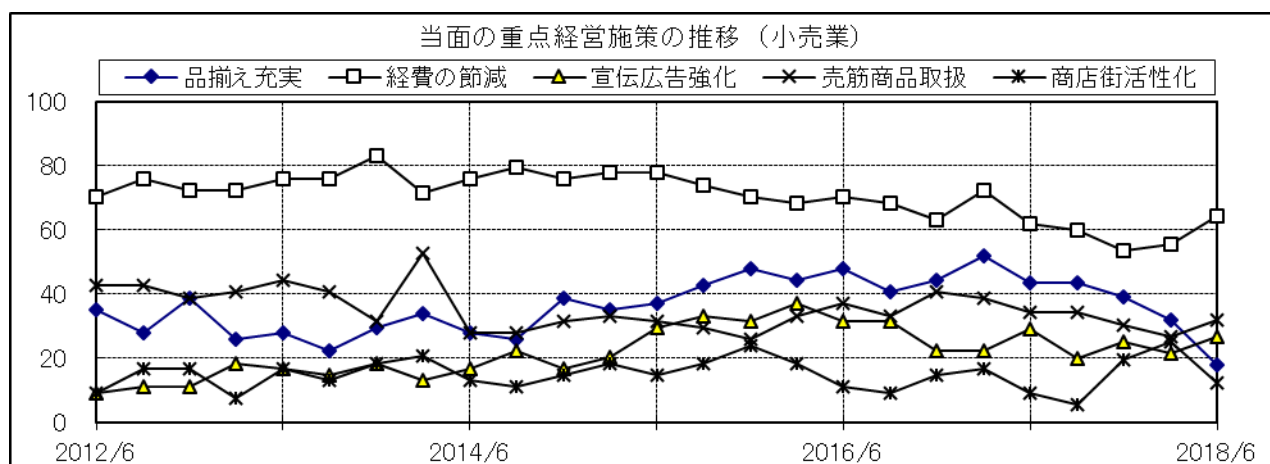
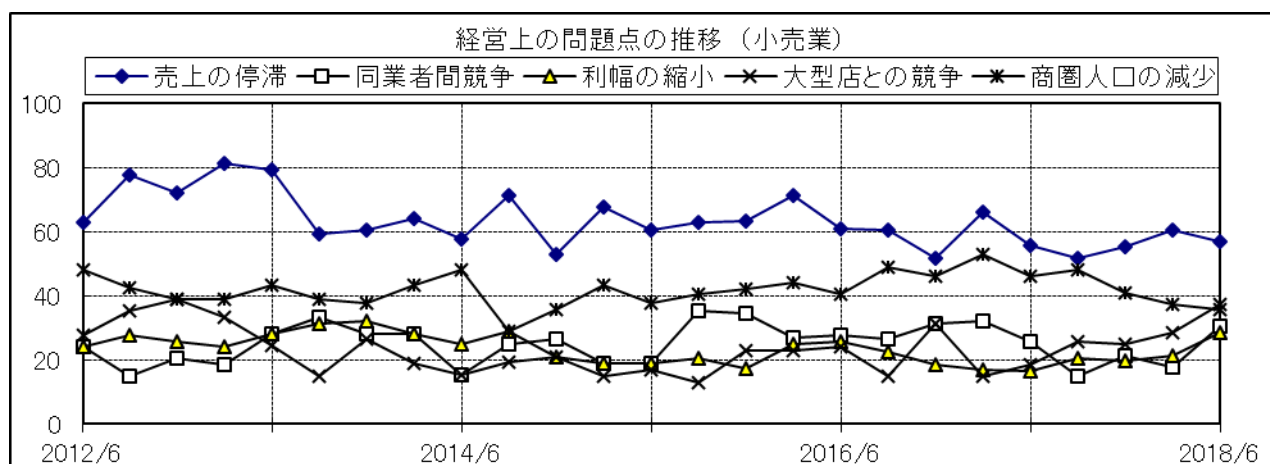
設備投資の充足感を示す D. I. は $\Delta 10.7$ で、前期 ($\Delta 17.9$) 比で 7.2 ポイント上昇した。

設備実施企業割合は 3.6 で、前期 (7.1) 比で 3.5 ポイント下降した。設備投資は、前期 4 社に対し 2 社の実施となった。来期の設備投資の予定は 1 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が 57.1% と最も多く、「大型店競合」37.5%、「商圈人口減少」35.7%、「同業者競合」30.4%、「利幅縮小」28.6%、「人手不足」8.9%、「取引先減少」・「値上げ要請」7.1%、「販売商品不足」・「諸経費増加」・「商店街集客力低下」・「地場産業衰退」5.4% となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が 64.3% と最も多く、「売れ筋商品取扱」32.1%、「宣伝広告強化」26.8%、「品揃え改善」17.9%、「仕入先開拓選別」・「商店街活性化」12.5% となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断 D. I. は $\Delta 16.1$ と、今期比 15.9 ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断 D. I. は $\Delta 7.2$ と、今期比 21.4 ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断 D. I. は $\Delta 9.0$ と、今期比 17.8 ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断 D. I. は 10.7 と、今期比 1.8 ポイントの上昇を見通している。

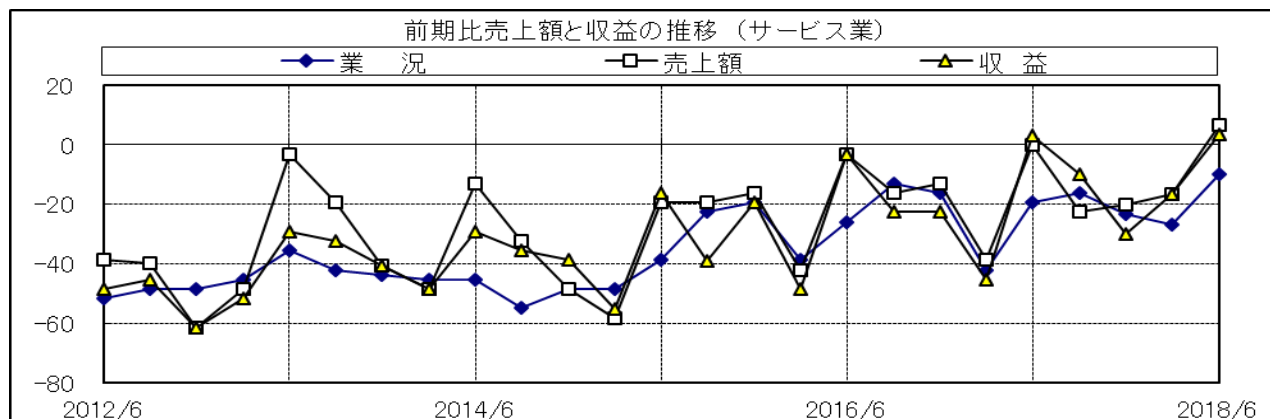
予想仕入価格判断 D. I. は 25.0 と、今期比 8.9 ポイントの下降を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-23.3	-26.7	-10.0	-10.0
売上額	-20.0	-16.7	6.7	-3.3
収 益	-30.0	-16.6	3.4	-6.6

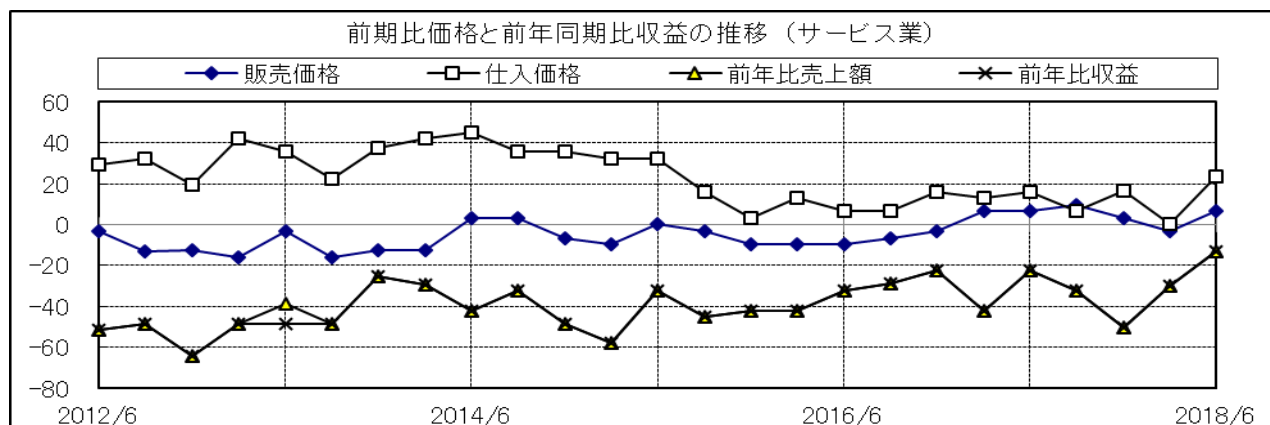
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 10.0$ で、前期比 16.7 ポイント上昇、前年 ($\Delta 19.3$) 比で 9.3 ポイント上昇した。地区別の D. I. は浦河・静内・三石・えりも・広尾が同率となり、様似が最も低くなった。売上額判断 D. I. は 6.7 で、前期比 23.4 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は 3.4 で、前期比 20.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
料金価格	3.3	-3.3	6.7	0.0
材料価格	16.7	0.0	23.3	16.7

料金価格判断 D. I. は 6.7 で、前期比 10.0 ポイント上昇、前年 (6.5) 比では 0.2 ポイント上昇した。材料価格判断 D. I. は 23.3 で、前期比 23.3 ポイント上昇、前年 (16.2) 比で 7.1 ポイント上昇した。業種別では、旅館業・洗濯理美容業・自動車整備業全てで、料金、材料費ともに上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	-10.0	-6.7	0.0	3.4
人手状況	-16.7	-10.0	-13.3	-13.3

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期比 6.7 ポイント上昇、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 13.3$ で、前期比 3.3 ポイント下降、人手不足感が強まった。

□ 設備投資の動き

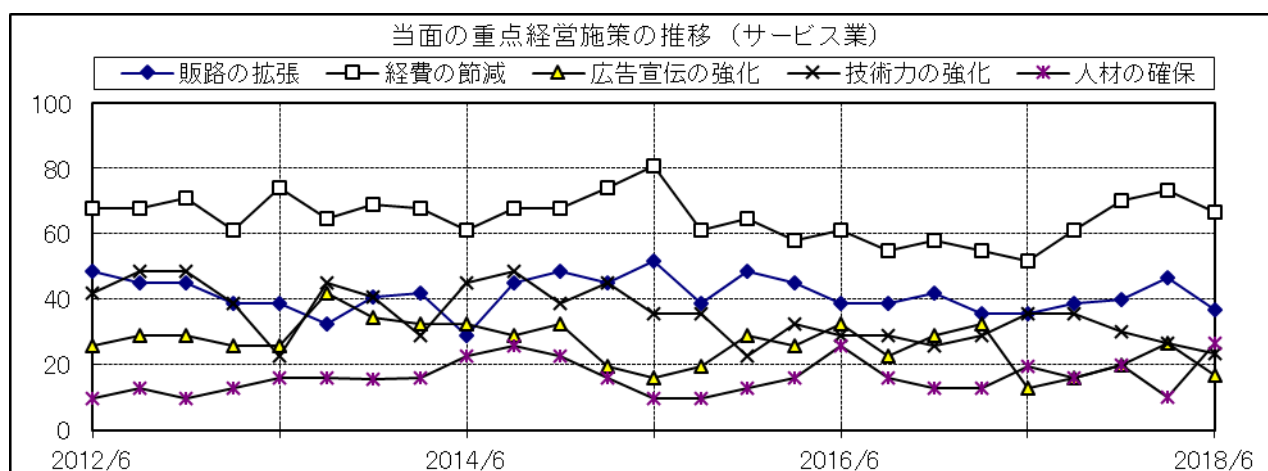
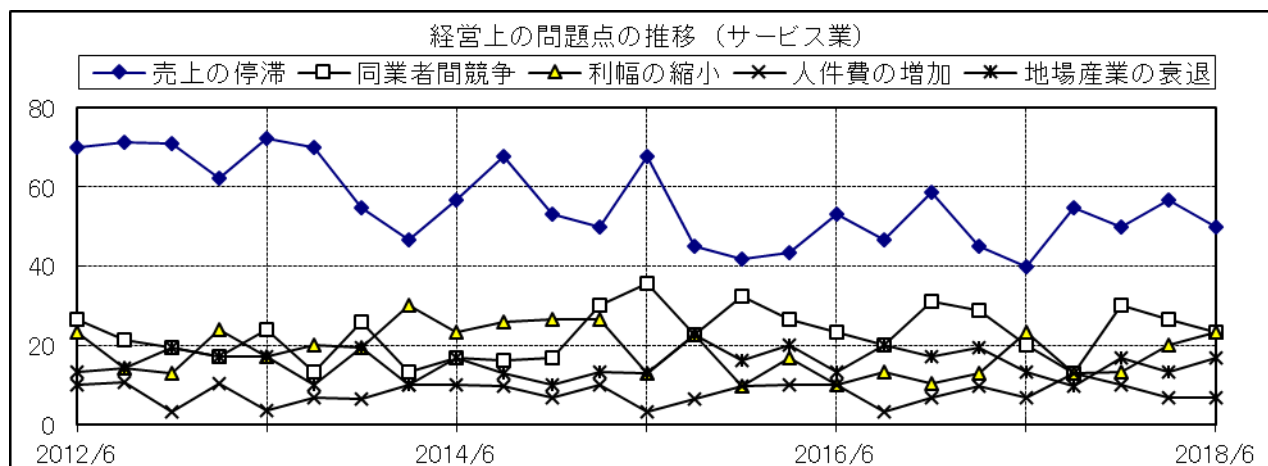
設備投資の充足感を示すD.I.は△6.7で、前期(0.0)比6.7ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は10.0で、前期(3.3)比6.7ポイント上昇した。設備投資は、前期1社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が50.0%と最も多く、「商圈人口減少」46.7%、「人手不足」・「同業者競争」・「利幅縮小」23.3%、「材料価格上昇」・「地場産業衰退」16.7%、「大手企業競争」・「人件費増加」・「技術力不足」・「取引先減少」・「店舗設備老朽化」6.7%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が66.7%と最も多く、「販路拡大」36.7%、「人材確保」26.7%、「技術力強化」23.3%、「宣伝広告強化」16.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△10.0と、今期と同水準を見通している。

予想売上額判断D.I.は△3.3と、今期比10.0ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D.I.は△6.6と、今期比10.0ポイントの下降を見通している。

予想料金価格判断D.I.は0.0と、今期比6.7ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D.I.は16.7と、今期比6.6ポイントの下降を見通している。